

# ASK レポート

No.0031

2015年8月10日(月)

担当：MS事業部 北野

〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-22-21

損保ジャパン日本興亜名古屋ビル1F

ASK 税理士法人

TEL 052-971-1122 FAX 052-971-4488

## 拉致被害者を取り戻すために

### はじめに

正論懇話会にて、東京基督教大学教授で、救う会会長である西岡力氏の話をお聴きしました。講演のテーマは「全ての拉致被害者を取り戻すために」です。

### 北朝鮮の動向

北朝鮮が、昨年対日接近を図ったのは、最近、軍幹部や朝鮮労働党の幹部クラスの脱北者が相次ぎ、側近を処刑した結果側近になりたがる人がいなくなったなど体制が揺らいでいるなどの背景があります。他にも朝鮮総連に対する日本の強い圧力、国際的孤立状態なども影響していると西岡氏は解説されていました。

### 再調査について

金正恩第1書記に体制が変わり、2002年に金正日総書記時代に出した報告内容を覆しても金正日総書記が間違っただけではなく実務者が間違っただけで報告を上げていたことが再調査により判明し、調査結果が変わったという弁明の機会を日本は与えました。

ただし、再調査の合意をした昨年5月のストックホルム合意の時点では、金正日報告を覆す決断をするかどうかを金正恩に確認せず合意を結んでしまったので、対応を決めるのに時間稼ぎをしていると西岡氏はみています。

### 拉致被害者の再調査状況

7月2日に北朝鮮より、拉致被害者の再調査について「今しばらく時間がかかる」という通知がありました。ストックホルム合意に基づき設置された特別調査委員会が拉致被害者以外の日本人に関する調査（残留日本人・日本人妻等）に関する報告書を先に出すという打診に対し、安部首相は拉致問題最優先で「対話と圧力」「行動対行動」の方針に基づき一蹴しました。

### 解決に向けて

拉致被害者の家族も高齢となり、早期解決が求められています。何より今回、死亡していると再度報告をされた場合、そのニュースを北朝鮮で見た拉致被害者は希望が立たれ、精神が持たないだろうと拉致被害者である蓮池薫さんは語っております。

「拉致が解決しない限り北朝鮮に未来はない」と阿部首相は話しております。この強い姿勢を崩さず拉致被害者の一括帰国を一切妥協することなく推し進めて欲しいと思います。

